

～各学部で取り組む読書活動～

読書習慣に合わせて絵本の読み聞かせやおすすめの本の紹介など、各学部で取り組みました。

幼稚部より

大和郡山市立図書館から絵本を借りて『絵本の森』を開催しました。

お友達と一緒に絵本を読み合ったり、先生に読んでもらったりしました。また、ボランティアで保護者の方も来てくださいました。「これ、読んで！」とお願いして読んでもらったり、絵本のページをめくるたびに「これはなに？」と載っているイラストについてお話ししたりする様子が見られ、とても興味津々の子供たちでした。これからも絵本に親しむ機会を作っていきたいと思います。



小学部より

低学年は、レオ・レオニさんの「せかい いち おおきな うち」という絵本です。

おいしそうなキャベツにかたつむりたちが住んでいました。ある日、ちびかたつむりはお父さんに言いました。「世界一大きな家が欲しいな。」そしてお父さんが「うどの たいぼく」の話をしました。子供たちは「大きい家すぎて、動けなくなっている」「動けなくてひとりぼっち、さみしい」など読み聞かせの後は、感じたことを話していました。だんだん大きくなっていく家にも興味津々に、見ていました。



高学年は、鈴木のりたけさんの「とんでもない」という絵本です。

男の子は、サイのような立派な皮がうらやましい。でも、サイは身軽なウサギがうらやましくて…、うらやましい気持ちがどんどん他の動物に連鎖していくお話でした。子どもたちは「それぞれにいいところや大変なことがあるんだな」ということに気が付いて、読み聞かせ後には自分はどの動物になりたいかを友達同士で話していました。さまざまな動物が言う「とんでもない」という言葉が面白く、次に登場してくる動物に期待を膨らませながらどの子も夢中で見ていました。



中学部・高等部 図書委員より

生徒のみんながもっと図書室を活用するために、自分たちが好きな本を紹介することにしました。昼休みや放課後の時間を見つけて、レイアウトを工夫したり、話のネタバレにならないように配慮したりしながら紹介文を作成しました。

図書委員同士も、「その本読んでみようかな」「その本おもしろいよね」など、お互いの本に興味をもって、本の話に花を咲かせていました。図書委員のメンバーはまだまだ面白い、大好きな本を知っているので、また随時紹介していきたいと思います。

